

第3版はじめに

2018年の本書第2版の出版以降、民法や刑法等の改正・施行、あるいは最高裁判例の変更や違憲判決等、法を取り巻く社会情勢は更に大きく変化している。また、近時の、法に限られない社会情勢の急速な変化は、これからの社会生活において、社会に生起する諸問題に対して既知の知識を活用しつつ様々な思考を展開させることで解決を図るために、より高度な思考能力を養成することの必要性を示している。昨今のこうした状況から、本書初版、並びに第2版の「はじめに」にて既述したように、大学教育における「高度な思考性」の修得に対する社会の期待はますます高まっている。そこで、最近の法的変更を反映させることで、これまで本書が維持してきた「法的思考のツール」たる Device としての役割を果たすべく、第3版を作成することとした。

第3版の作成にあたっては、社会の存在を前提として機能している法を現実的な適用面から具体的問題として把握する思考方法、並びに具体的解決を図るなかで法理論へと遡る方法論を踏襲し、感性にもとづく自由な発想と現実的処理としての法適用の融合をめざすという本書の当初からの枠組みを維持した。その中で、憲法、民法、刑法等の最近の動向を反映させることを意識した。

第3版までに積み重ねてきた本書の記述により、学生諸氏の思考性が刺激され、創造性に溢れる論理的思考を形成できる一助となることを期待している。本書がそうした学生諸氏の学問に対する熱意に応えるものになっていることを著者一同確信している。

最後に、第3版の出版にあたって、法律文化社の方々大変お世話になった。ここに改めて厚く御礼申し上げる次第である。

2025年1月

著 者